

## 令和4年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

重点課題は、学校の現状を踏まえ5つの分掌でそれぞれ設定し、取り組みを行ってきた。

各重点課題についての取組状況や評価の詳細は、アクションプランに示したとおりである。今後、さらなる指導の改善や生徒の意欲向上を目指して努力していきたい。

I C Tを活用した授業の互見授業は教職員の意識が高く、91.4%であった。卒業時まで全員が資格取得すること、ジュニアマイスター顕彰シルバー以上取得は、コロナ禍による受験機会の減少や生徒の意識の変化等により達成ができなかった。

年間の無遅刻生徒の割合向上については、生徒指導部の登校指導に加えて、時間ぎりぎりに登校する生徒への声掛けや、生徒をあいさつ活動に参加させるなど地道な努力で遅刻が減少するように取り組み、目標を達成できた。

3年生の進路希望の達成度については、今般の好調な求人状況もあり、進路決定先に納得している割合目標を達成できた。

部活動については、部加入率、積極的に活動している割合とも掲げた目標を下回り、現状より悪い結果となった。

生徒の朝食摂取率についてはほぼ目標を達成できた。長時間のスマートフォン等の利用や、遅い就寝時間の生徒が一定数いるなど、課題もある。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

本校は本校教職員の努力によりI C T機器の活用は進んでいると思うが、生徒が主体的にタブレット等を活用する場がまだ少ないので、他の教員の先進的な授業実践を広めながら、主体的に活用する機会を増やしていきたい。

生徒がより上位級の検定や国家資格などに積極的に挑戦するよう、本校が掲げるUDG s（人生を変えるための17の目標）を活用した授業の中での動機付けや主体性を育む指導を進めていきたい。

遅刻者の減少をはじめとした生活習慣の確立については、学校評議員や企業関係者から注目される場所であり、就職者の多い学校としてよりよい方策を考えながら、今後も個別指導など粘り強く取り組んでいきたい。

進路指導については、求人状況の様子に関わらず、教員による丁寧な指導を続けていき、今後も生徒の満足度を高く維持できるように努めたい。

部活動の活性化についてはコロナ禍の影響や生徒の資質の変化など分析するとともに、部活動が活発化する方策を検討していきたい。

朝食摂取率の維持向上では、基本的な生活習慣の維持は高校生活の重要な側面であるため、今後も生徒の生活実態の分析と指導を重ね、好ましい生活習慣の定着を目指したい。家庭環境により朝食が用意されていなくても自分で朝食を用意し摂取することや、スマートフォン等の長時間利用による遅い就寝時間のため時間ぎりぎりに起床する生徒への適切なネット利用の啓発もしながら、改善を図りたい。

(様式5)

令和4年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	生徒が主体的・対話的に参加し学ぶことができる授業を目指した教員研修の推進と、資格取得に向け生徒が意欲的に学習するような指導方法の研究推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・基礎的な学力が身に付いていない、自ら学ぼうとする態度が見られない生徒が増える傾向にあり、授業をはじめとした日々の学習はもちろん、資格・検定等に意欲的に取り組もうとしない傾向がある。</li><li>・意欲関心をもたせる授業の研究や、資格・検定取得の学習をより魅力的かつ効果的に行う方法を研究・実践し、生徒の学習意欲を喚起する必要がある。</li></ul>
達成目標	① ICTを活用した指導力向上及び教育内容の充実を目的とした互見授業を実施し、教科別等の校内研修会に参加した教員の割合
	70%以上
達成目標	② 2種類以上の資格や検定を取得した割合
	卒業時までには 100%
達成目標	③ ジュニアマイスター顕彰制度によるシルバー以上の取得率
	卒業時までには 15%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ICT教育推進委員会で校内研修計画の企画・立案をし、多くの教員が研修会に参加するよう各教科へ働きかけをするとともに、互見授業の開催・参加がしやすい環境を作る。</li><li>・生徒に資格・検定の案内や年間計画を配布し、ジュニアマイスターポイントの取得状況を確認させ、資格・検定の取得意欲を高めさせるとともに、自ら学びに向かう生徒を支援する。</li><li>・日々の学習を困難に感じている生徒や、資格取得に向けての学習ができない生徒等を把握し、原因や問題点を見いだして適切な助言や補習等の支援を行う。</li></ul>
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"><li>・教頭、教諭、実習助手 47 名中、43 名 (91.4%) が教科別研修会に参加した。また、ICTを活用した互見授業については、延べ 71 件であった。</li><li>・3年生 144 名のうち 132 名 (91.7%) が資格検定 2 種類以上取得した。</li><li>・3年生 144 名のうち 18 名 (12.5%) がジュニアマイスターシルバー以上 (ゴールドは 3 名) 取得した。</li></ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・互見授業の集中実施期間を 11/7～11 に設定し、生徒が ICT を活用した授業を中心に授業を公開した。全ての教科において授業研究を行うことができた。</li><li>・資格、検定について、係や各学科の担当が中心になり、取得へ向けての取組みの重要性やジュニアマイスター顕彰制度等について伝えた。また、自主的に資格取得の勉強に取り組めるように学習教材の充実を図った。</li></ul>
評 価	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度は、生徒が ICT を活用する授業の公開を実施した。やや敷居が高かったが、各教科とも積極的に取り組み、目標を達成できた。</li><li>・資格、検定 2 種類以上取得者は目標を達成できなかったが、例年程度に達した。</li><li>・ジュニアマイスターシルバー以上の人数は昨年度の 24 名 (15.3%) からやや減少し、目標の 15% には達しなかった。より上位級の検定や国家資格などに挑戦する生徒の数が減ったためと考える。</li></ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・何のためにジュニアマイスターシルバー以上を目指すかの目的意識をもつことが大切である。手段が目的化してはいけない。価値観が多様化していく時代の中で、自分で考える習慣が必要である。</li><li>・ジュニアマイスターシルバー以上が振るわなかったため評価が「C」となっていると思われるが、挑む人数が少なかったのか、力量的に達しなかったのかが気になった。</li></ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員の研修による授業改善と指導力向上のため、互見授業を行うことが今後も定着するよう取組みを継続し、ICT 活用による生徒の主体的な学びにつながる授業の研究を更に進めたい。</li><li>・より上位級の検定や国家資格などに積極的に挑戦するよう、UDGs (人生を変えるための 17 の目標) を活用した授業の中での動機付けや主体性を育む指導方法について、さらに検討する必要がある。また、クラウドサービスを利用した補習や学習コンテンツの更なる充実を図り、生徒が主体的に学ぼうとする環境を整備していきたい。</li></ul>

( 評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった )

(様式5)

令和4年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・規範意識が希薄なため、安易に遅刻をする生徒がいる。</li><li>・充実した学校生活を送るために、遅刻の防止を中心とした基本的な生活習慣の確立の必要がある。</li><li>・体調不良での遅刻が多く、体調管理の必要がある。</li><li>・過去の遅刻回数はR元年度172回、R2年度174回、R3年度199回であった。</li><li>・特定の生徒が事情により複数回の遅刻をしているため、指導方法の改善が必要である。(遅刻者86名のうち14名で総遅刻回数の約4割)</li><li>・遅刻をしていない生徒が全体の約80%いる。</li></ul> <p>&lt;参考&gt;R3年度の無遅刻生徒の割合(80.1%) ※夏季休業が2週間延長</p>
達成目標	年間の無遅刻生徒の割合 (通院等を除く) 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・全教職員による登校指導やクラス別遅刻者統計を集計して、生徒にアクションプランの実現を呼びかける。</li><li>・遅刻しないための事前指導を充実させる。</li><li>・遅刻した生徒には、その都度面談し、遅刻の原因を考えさせ、解消するよう指導する。(学年との申し合わせ事項を作成し、統一した指導を行う)</li><li>・総遅刻回数も意識させるため、毎月の遅刻数及び年度の累計数を表示し、実態を理解させる。</li><li>・度重なる生徒には、学年・学科と協力して個別指導を行う。</li><li>・学年と協力し、朝学習への積極的な参加を促す。</li><li>・食事、睡眠を正しくとり、体調管理の徹底を呼び掛ける。</li></ul>
達 成 度	年間の無遅刻生徒の割合 (通院等を除く) 81.0% (1月26日現在)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒指導部の教職員で毎朝登校指導を実施した。また、全教職員の協力を得て、さわやか運動及び登校指導を実施した。</li><li>・朝学習開始時刻(8:25)ギリギリに登校する生徒に声かけをしてきた。</li><li>・朝学習開始時刻を過ぎて登校する生徒には、朝学習に間に合うように話をするなどして改善を促した。</li><li>・遅刻者には「入室許可証」を発行し、その場で遅刻理由を確認して生活指導を行った。併せて、その都度、遅刻者と話をして、現状を確認し改善策を考えさせた。</li><li>・遅刻者には翌朝のあいさつ活動等を課して、本人の自覚を促した。</li><li>・終業式には無遅刻生徒の割合を知らせ、無遅刻者数の割合80%以上を目標にしていることを周知した。</li></ul>
評 価	A <ul style="list-style-type: none"><li>・1月26日現在、年間無遅刻者生徒割合は80%を超えており、現時点では目標を達成している。(総遅刻回数は161回(1月26日現在)であり、昨年とほとんど変わらない。)</li></ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・素晴らしい結果だと思う。複数回遅刻する生徒の割合の分布等が気になる。</li><li>・対策が再発防止に役立っているのか、指導の効果を今後の検証に活かせるとよい。</li></ul>
次年度へ向けての課題	遅刻理由については、寝坊が41.6%、体調不良が33.5%であり、この2つの原因で75.1%となっている。他には、忘れ物、電車降り過ぎし等がある。寝坊や体調不良の原因については生徒によって異なる。寝坊にしても体調不良にしても、繰り返さないように個別の指導を行い、次年度には改善するようにしていきたい。遅刻経験者70名のうち、1回だけの遅刻者が38名(うち1,2年生が22名)おり、年度当初に遅刻しないよう(無遅刻生徒の割合を高めるよう)呼びかけていきたい。

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )

(様式5)

## 令和4年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援											
重点課題	進路意識の高揚											
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来や進路に対する認識が甘く、職業観・勤労観に乏しい生徒がみられる。</li> <li>・進路の選択決定において、継続的に取り組む態度に欠け、十分な対策を行わず就職試験や入学試験に臨む者がいる。</li> <li>・進学者の中に、目的が明確ではない生徒や基礎学力の低い生徒がいる。</li> <li>・3学年145名の内、100名が就職を希望している。</li> </ul>											
達成目標	自分の進路決定先に納得している生徒（学年末にアンケート調査を行う）の割合 90%以上											
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップや応募前職場見学会への参加や進路講話などを積極的に推進し、生徒の進路意識を高める。</li> <li>・学年や学科と連携し、面接指導や進学補習の充実を図る。</li> <li>・面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導を行う。</li> <li>・入れる会社・学校からぜひ入りたい会社・学校を考え、各自に合った進路希望実現に向けて指導にあたる。</li> </ul>											
達 成 度	<p>進路指導アンケート「自分の進路決定先に納得をしていますか。」との問いに</p> <table border="0"> <tr> <td>「ア 十分納得している。」</td> <td>102名</td> </tr> <tr> <td>「イ どちらかといえば納得している。」</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td>「ウ どちらかという不満である。」</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>「エ 全く不満である。」</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>「オ その他」</td> <td>4名</td> </tr> </table> <p>アとイを回答した生徒の割合 96.2% 132名中127名 (1月23日現在)</p>		「ア 十分納得している。」	102名	「イ どちらかといえば納得している。」	25名	「ウ どちらかという不満である。」	1名	「エ 全く不満である。」	0名	「オ その他」	4名
「ア 十分納得している。」	102名											
「イ どちらかといえば納得している。」	25名											
「ウ どちらかという不満である。」	1名											
「エ 全く不満である。」	0名											
「オ その他」	4名											
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路オリエンテーション（全学年）、</li> <li>・進路ガイダンス（全学年）</li> <li>・進路関連検査（全学年）</li> <li>・本校会場の企業説明会（6月18日 参加企業数38社）</li> <li>・インターンシップ（7月 2年生全員）</li> <li>・卒業生講話（1年：2月、2年：3月）</li> <li>・応募前職場見学、オープンキャンパスへの参加（3年）</li> <li>・就職、進学に向けての準備と指導（3年：面接練習、作文・小論文指導、進学補習）</li> </ul>											
評 価	A	本年度は、就職において、ほとんどの生徒が1次応募で内定をいただくことができた。このことから進路先に納得している生徒の割合が高くなったと考えられる。										
学校関係者 の意見	進路支援では96.2%の生徒が進路決定先に満足しているとのことで、先生方と家庭が連携して生徒を支えていただいたお陰だと思っている。得られたデータを基に何ができるかを考えていただき、より良い高校に導いていただければと思う。											
次年度へ 向けての 課題	良好な結果であった理由は、就職希望者の99%が1次選考で内定を得ており、希望どおりの企業に内定していたためである。企業の採用意欲が非常に高いという追い風に乗った結果であり、来年度は今年度より厳しくなると思われるが、丁寧な指導により満足度を上げられようになりたい。											

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )



(様式5)

令和4年度 魚津工業高等学校アクションプラン - 5 -	
重点項目	学校生活
重点課題	規則正しい生活リズムの定着
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・食生活・睡眠・運動等、生活習慣に問題をもって入学してくる生徒が多い。</li><li>・特に夜型の生活や食習慣の偏りが、学習意欲の低下や肥満等、心身の健康と関連し、学校生活に悪影響を及ぼしている。</li></ul>
達成目標	朝食摂取率（第2回調査（11月）における摂取率） 95%以上を維持する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活習慣調査を年2回実施し、各自の生活を振り返らせる。</li><li>・問題があると考えられる生徒には、個別指導を実施する。</li><li>・担任や部顧問との連携を図り、保護者会等で保護者に協力をお願いする。</li><li>・外部講師を招き、集団保健指導を実施する。</li></ul>
達 成 度	朝食摂取率（ほとんど毎日） 93%（1学期）→ 95.0%（2学期） （参考 昨年度朝食摂取率 92.1%（1学期）→ 93.0%（2学期））
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活習慣調査を7月と11月に実施し、生徒自身の生活習慣について見つめさせる機会を設け、朝食の摂取状況が良くない27名には、保健部による個別指導を実施し、摂取できない理由に応じた改善方法を生徒自身に考えさせた。</li><li>・担任や部顧問に調査結果を報告し、1学期末・2学期末の保護者懇談会等で家庭への協力や連携をお願いした。</li><li>・1年生を対象にした「健康を考える日」に管理栄養士を講師として招き、朝食の重要性や食事バランスについて講演会を実施した。</li><li>・「保健室通信」、生徒保健委員会広報「わかば」で、保護者・生徒に朝食摂取の重要性について啓発した。</li></ul>
評 価	B <ul style="list-style-type: none"><li>・第1回調査で個別指導した生徒に、やや改善が見られたものの、指導を受けた約1/4の生徒については朝食を摂る習慣がついていない。</li><li>・朝食の摂取状況が悪い生徒のうち、約1/3強の生徒の就寝時間が24時を過ぎていた。（朝食をほぼ摂っている生徒は約1/5が24時以降の就寝であった）</li></ul>
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝食を食べない親も多いのではないか。</li><li>・朝食摂取状況がスマホの使用時間と連動しているかもしれない。</li><li>・適切なスマホの使い方を指導して欲しい。</li><li>・今後とも朝食指導の継続を。</li></ul>
次年度へ 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝食を食べない生徒に対しては親に朝食を用意してもらうのではなく、将来の自立を考え、自分で用意して食べる習慣を身に付けさせたい。</li><li>・就寝時間の指導も併せて行う必要がある。</li></ul>

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )